



蓮根小コミュニティ・スクール【iCS 便り】 ー令和 6 年度 Vol.2ー



猛暑も一服し、長い夏休みも明けて 2 学期がスタートしますが、お子さまの準備はいかがですか？

令和 6 年 7 月 25 日（木）に開催された、第 2 回コミュニティ・スクール委員会（CS 委員会）の議事の概要をご報告いたします。

＜学校の様子について＞

- 地域コーディネーター（長山委員長）より、一学期の全校遠足誘導、体力テスト、ミュージカル観劇引率、算数検定へのボランティア募集及び参加状況が報告され、芦谷校長先生より 6 年生のミュージカル観劇への参加状況（あいさつ、あつまり、あるきかた、3 つの「あ」に対する取組み姿勢）が報告された。
- 熟議テーマ「児童の居場所づくり」の質疑に先立ち、校長先生より蓮根小の現状として、いわゆる不登校児童、学校には来られるが丸一日はられない児童、教室に入ることが難しく常時保健室に登校している児童がいることが報告された。
⇒本熟議では保健室登校児童について対応を検討するものとした。

＜現状の課題、「熟議テーマ」に対する質疑・意見等＞

- 図書室の一角など、保険室の代わりとなる居場所候補はあるが、問題は対処する人がいないこと。現状の教員だけでは対応するのが難しい。
- どのような人材が望ましいか？（委員より）＞教職免許等の資格は不要。「教えること」をメインに期待してはならず、適度な距離感をもって「見守る」ことが出来る複数人の大人の存在が重要（学校より）。
- 一方で、学習ボランティアとして大学生を募集したところ応募があり、従事してもらう予定。教員を目指している大学生は、「教える経験」を希望しているケースもあり、家庭教師的な役割を担ってもらえれば、教員の負担軽減の観点からも助かる（学校より）。
- 現役保護者のボランティアはどうか？（委員より）＞センシティブな対応でもあり、現役保護者は難しいと思う。なお、他校では、週 3 回フリールーム形式で教室に入れない児童を受け入れているが、対応は卒業生保護者等の地域コーディネーターが対応している事例を聞いている（学校より）。
- 児童にとっても顔見知りである登下校時のシルバーボランティアの方をお願いするのはどうか？（委員より）＞シルバーボランティアの方には報酬が発生しており、かかる点のクリアが必要。シルバーボランティアはただでさえ体力的な負担が大きく、今後検討が必要。（学校ならびに委員より）。
- 「見守り」ボランティアは、不定期での参加やテレワーク対応、複数人が参加可能なサロンのような場所であれば、我々も含めて一定数手を挙げる人もいるのではないかと？（委員より）＞まずはやってみないとどのような問題が出てくるかわからない。皆さんのネットワークの中で適任と思う方がいれば推薦して欲しい（学校より）。
- なお、管理職以外の教職員も CS 委員と交流を進める今年度方針に基づき、5 名の一般教諭が参加した。

以上



【蓮根小 CS 事務局】